

令和7年度（2025年度）第2回北区まちづくり懇話会 会議録

【日 時】 令和7年（2025年）11月5日（水）
午前10時～11時30分

【場 所】 北区役所2階第2～4会議室

【出席委員】 岡 順子、関 智弘、原口 美季、廣永 芳伸、徳永 親、
堀 史、松本 康宏、渡邊 和代、井村 ユリエ、一安 明子、
古市 伸一郎、境 真紀 以上12名（敬称略）

【傍聴者】 3名

【会議次第】

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 審議事項
 - (1) 令和8年度北区まちづくり推進事業について
 - (2) その他
- 4 閉会

Ⅰ 開会

2 会長挨拶

第1回の懇話会が6月に行われ、北区の重点取組「担い手の確保」「在住外国人との共生」について議論し活発なご意見をいただいた。その結果を踏まえ、第2回では、来年度のまちづくり推進事業について議論する。新事業も企画されている。

8月に開催された北区集談会 in 北部へ参加した。たくさんの企業の方や地域の方の意気込みやパッションを感じたところ。

北区の取組が更に活発なものとなるよう、今回も懇話会の中で忌憚のない意見をいただきたいと思う。

3 審議事項

(1) 令和8年度北区まちづくり推進事業について

«事務局から、別紙1（地域コミュニティ・事業番号1～14）について説明»

●ICTを活用した地域支援事業）Canvaによる地域イベントチラシ作成の取り組み (古市委員)

作成後の活用・評価・発表の予定はあるか。作っただけで終わるのではなく、活用していくと事業としての成果がみえてくるのではないかと思う。

(植木まちセン)

現在、植木まちセンでは、継続事業としてコミュニティセンターの事務員向けに地域住民への指導・チラシ作成・課題分析などを進めているところ。今後、北区全体での展開を予定している。

●まちづくり推進経費新規事業の採択・査定について

(徳永委員)

新規事業がたくさんあり意欲的だと感じた。今回はなぜ新規事業が多く出てきたのか。不採択になることがあるのか、また、減額の可能性はあるのか伺いたい。

(区長)

地域の状況に応じた課題が見えてきて、今回の事業提案につながった。議会での審議次第ではあるが、減額や縮小の可能性はある。ただし、事業自体は実施予定。

●外国人向け日本語教育・食文化交流について

(一安委員)

外国人の方に日本のことを使ってもらった後、学んだことを活かしてどう活躍してもらうか等計画はあるか。

(総務企画課)

まずは外国の方への発信が第一歩と考える。将来的に地域住民と外国人の共生を目標としており、今後、外国の方から日本人へ発信してもらうことも大事なことだと思う。そのための交流の場として、カフェ形式の交流会を設ける予定としている。

(境委員)

情報の周知方法は何を想定しているのか。赤ちゃん訪問をしているが、外国人の方がとても増えている実感がある。

外国人への情報提供方法が重要。企業への訪問や通勤している外国人へ直接案内するなど、実際に届く手段を検討してほしい。

(区長)

まずは企業へ直接案内し、地域イベントへの参加を促進。母子手帳交付時など子育て世代への周知も検討している。全体的に周知ができるよう努めたい。また、北区公式Instagramでも周知する。地域との文化的交流を進める。

●SNSによる情報発信 (Facebook・Instagram)

(堀委員)

北区公式Instagramをフォローしたが、色々な情報の発信があり嬉しくなった。校区で事業をする際、まちセンから取材に来てもらいたい情報発信をしてもらえるため、地域の方は大変喜んでいる。FacebookとInstagramの住み分けはどうするのか。

(総務企画課)

当面は並行運用。Instagramは若年層向けに広くお知らせでき、Facebookは顔が見える関係性を重視。内容によって使い分けを行う。同じ情報を掲載することもある。

●地域の魅力発信事業 (ひまわり・モザイクアート)

(関委員)

継続事業だが、過去の活動内容との違いはあるか。また、今後のグッズの内容や配布先について伺いたい。

(総務企画課)

来年度は、今年度同様、区の花ひまわりの種の配布、絵画コンクール、応募された全てのひまわりの絵を使いモザイクアートを作成予定。グッズは、来年度の内容は未定。今年度はコースターや蛍光ペンを作成。昨年度はクリアファイル、鉛筆、防犯ブザーなど、こどもまつりや各種イベントなどで配布している。

(関委員)

区内の方へ周知をした上で、区外の方に北区の魅力を発信するためにも対象を広げる検討をしてはどうか。

●地域コミュニティブランド活用事業 (崇城大学との連携)

(古市委員)

事業同士の連携や、学校の授業での活用は可能か。

(総務企画課)

空き家対策など連携実績あり。他事業と連携できる部分は連携していきたい。また、授業での活用も歓迎。

●北区地域コミュニティづくり支援補助金

(岡委員)

外国人対応が重点取組になっているが、補助金の対象は外国人に限定されるのか。

(総務企画課)

外国人対応は重点取組の一部。現在、外国人関連事業に取り組んでいる団体があることもあり関連としてフラグを立てている。

地域コミュニティづくり支援補助金は外国人対応に限らず広く活用可能。

«事務局から、別紙Ⅰ（こども・健康福祉・防災・住環境・産業振興：事業番号 15～27）について説明»

●災害時の避難所運営に関する課題

(松本委員)

防災関連が5本も計画されていて非常に嬉しい。

No.22、23に「くまもとアプリ」の周知・啓発・活用とある。避難者がアプリで登録しても、避難所担当職員がパソコンを避難所に持参しないと登録・情報確認ができない。

学校に災害用パソコンを常設するか、教職員のパソコンで対応をするか検討をしてほしい。
(総務企画課)

各学校の校長・教頭が使用するパソコンは、避難所での対応にも利用可能なため、避難所開設時にはそのパソコンを代用する方針で、担当部署とも協議済。

●まちづくり推進事業の内容について

(徳永委員)

継続しない事業はあるのか。外国人に対する事業が増えているが、高齢者に関する事業が無いのは、市全体、または県全体でカバーできているから区としての事業がないのだろうか。

(区長)

今回、新規案件が多数あることから、廃止になった事業もある。その中には、目的を達成したため廃止になっているものもある。担い手不足・外国人との共生・高齢者に関するこの3つが現在の地域課題であり、常日頃の業務の中で高齢者に対する事業は多々ある。今回提案している事業の中にはあえて記載はしていないが、全ての事業に高齢者は含まれている。

●防災士関連の周知と活動の場

(渡邊委員)

防災士として登録していても活動案内が届かない。地域の防災士をどこまで把握しているか。またどういう周知を行っているのか。興味がある方を増やすためにも広く周知をしてほしい。

(北部まちセン)

危機管理課が管理する熊本市地域防災リーダーへの登録者に通知を出している（北部地区で17名）。未登録者への周知は課題。各まちづくりセンターで防災イベントを計画し実施しているが周知が難しい。防災士との交流等協力依頼など今後も実施していきたい。

●防災士の資格取得や身近な防災教育

(井村委員)

防災士の資格を取得しても、登録費用に5千円、帽子など必要グッズ購入にもお金がかかる。物価高騰の影響もあり、少しの費用でも支払いができる方が増えている。

避難所運営も大事だが、家庭にある食材で作ることや、隣近所で助け合う防災食育として、こども食堂での防災料理教室（パッククッキングなど）を実施し、家庭での備えとこどもへの教育の重要性を発信している。狭いエリアでの防災教育の大切さを実感している。

こどもに対する金銭教育や詐欺対策も含めた生活防災の課題もあると感じている。

(区長)

防災というと地震を思い浮かべると思うが、先日の大雨も災害。市のハザード情報だけでは

不十分。地域住民と協働でハザードマップを全校区（地区）で作成し、実効性ある避難計画を構築し実践していきたい。

地域の企業も地域に還元しようと努力をしている。企業との関係を今後も密にしていきたい。金銭教育については、こどもに対する研修等があるか北合志警察署に確認したい。

●高齢者・防犯対策

(廣永委員)

ネット情報にアクセスしない（できない）高齢者も多く、詐欺被害のリスクが高い。実際に詐欺の予兆と言える出来事があった。テレビ位しか情報収集媒体が無い方がいるため、SNSでの情報発信も必要だが、掲示板や紙媒体での周知、いきいき体操などの交流の場で直接の声かけ等が大切だと感じている。

北区は特に高齢化率が高い地域が多いため、令和8年度事業では難しいかもしれないが、今後、警察等と連携して取り組んでいく課題ではないかと思う。

(区長)

各まちづくりセンター職員が地域のパイプ役として各校区に入り、地域課題に対応している。防災・防犯についてなど情報共有を行っていきたい。

●食育と野菜摂取促進事業

(原口委員)

野菜ソムリエが小学校で授業をしているのは知っていたが、農家めしレシピ等せっかく良いものがあるので、Instagram でレシピの配信や外国人への日本語教室について投稿してほしい。

(保健こども課)

学校での栄養士による授業や農家めしレシピは好評との報告を受けている。今後、Instagram を活用した情報発信も開始していく。

●高齢者支援と情報化対応

(一安委員)

まちづくり推進事業の提案について、福祉課から話しがあった。包括支援センターと連携し、認知症啓発を中心に横断的な取り組みを検討し実施するが、費用が掛からない事業のためまちづくり推進事業としては提案しなかった。

ささえりあでは、現在は高齢者には回観板や訪問が主となっているが、今後を見据えて紙媒体と SNS の併用による情報発信を継続していく。

●地域コミュニティづくり支援補助金

(徳永委員)

来年度事業の中でコミュニティづくり支援補助金が2番目に金額が大きい事業となっている。市民が発案できる貴重な事業となっている。ただ、申請期間等が分かりづらいため、各まちづくりセンターによる周知強化が望まれる。

近年の申請状況等を教えてほしい。

(総務企画課)

北区は他区より応募数が多く、近年地域コミュニティが活発化しており、現在は上昇傾向。

今後、周知にも力を入れていきたい。

3 (2) その他

北区公式 Instagram と北区こどもまつり案内

- ・北区公式 Instagram 開設の報告

- ・北区こどもまつりの告知

4 閉会

次回開催予定

次回懇話会は 2 月開催予定。詳細は後日連絡